

平成26年度 第2回 広報公聴委員会 会議録

開催日	平成26年 7月 4日 (金)
会議時間	午後3時00分 ~ 午後4時48分
開催場所	佐倉市議会 議会棟2階 第3委員会室
出席委員等	[委員長] 石渡 康郎 [副委員長] 久野 妙子 [委員] 五十嵐 智美、村田 穰史、小須田 稔、川名部 実 櫻井 道明、望月 清義
欠席委員等	高木 大輔
委員外議員	冨塚 忠雄
説明のため出席した者の職氏名	なし
議会事務局	[局長] 関口 直行 [次長] 向後 昌弘 [書記] 村上 一郎、室岡 秀樹、酒井 理恵子
協議事項	(1) 議会だより（6月定例会号）について (2) 議会報告会・意見交換会について（協議項目の確認）

【決定事項】

(1) 議会だより（6月定例会号）について

- 会派等の意見については、本文中に議員名を載せない。
- 本日提案したレイアウトに、指摘のあった点を調整し、発行に向けて準備を進める。

(2) 議会報告会・意見交換会について

- 今年度は9月定例会終了後から11月定例会開始前に実施をする。開催方法や内容については、各会派等にて協議していただき、次回以降の会議で協議、決定していく。

【主な意見等】

(1) 議会だより（6月定例会号）について

- 表彰は3名が受けているが、なぜ写真は1名だけなのか。
→これまで特別表彰者のみ写真を載せていたため今回もそのようにした。
- 会派等の意見は、今回から無会派議員は議席番号での表記に変更したが、本文中に名前を記載することはよいのか。
→本文に名前を記載してよいかどうかは前回議論していない。
→前回の趣旨を考えれば、記載すべきではない。委員会で決まったことには従うべき。
→本文についても委員会で検閲してよいのか。
→検閲ではない。名前を削っても本人の主張には全く影響はない。
→【採決】本文中に名前を入れることを認めないこととする。
- 会派等の意見欄が今回だいぶスペースが余っている。行の間隔をもう少し広く取れないか。
→全体で20行ほど原稿が短かった。その分は読みやすいようにスペースを取る。
- 一般表彰者と特別表彰者の記載の順は特別表彰者が先ではないか。
→写真の位置の関係で特別表彰者が後になっているが、特別を先にして写真を右にずらす。

(2) 今年度の議会報告会・意見交換会について

- 昨年他市の議員が議会基本条例の視察にきた時に必ず取り上げられるのが「議会報告会で何

を報告するのか。」ということ。行政への要望がほとんどで議会は何もすることができない。また周知をしても参加者が集まらないとのことであった。どこの議会でもその点で悩んでいて、佐倉も1回目と2回目で参加者がだいぶ減っている。

- 議員はそれぞれの支持者や市民の声を聞いて活動しているのに、全議員が参加して改めて報告会を行うことに果たして意味があるのかどうか。
- 去年は特定のグループとの意見交換会を行ったが、プロフェッショナルに何かやられている方、またそのジャンルの代表者との意見交換会のほうがより実のある議論ができるのではないか。
- 前回短大生と商工会議所、観光協会と意見交換会を行ったが、意見交換会のほうが幅広い意見が聞けて大変よかった。個人的には少子高齢化が問題になっているので、そうした関係者の声が聞けたらと思っている。
- 参加者が少なくなっているので、全議員が1か所に集まって行うのではなく、もっと地域に出て、例えば4常任委員会に分かれて複数の会場で行ってみてもよいのでは。
→地域を分けても同じ人が参加してくる。
- 報告会では何を報告するのか議員の発言が制約されるが、意見交換会であれば多少フレキシブルに発言することができる。また意見交換会で聞いた意見を、次の議会活動に活かすことができる。
- 一般の人に回覧しても人は集まらない。いろんな課題、たとえば特養（人材不足）、PTA（いじめ）など市民が関心を持っているテーマに対して意見を聞いたほうがよいと思う。
- 意見交換会でいい意見も出るが、その意見を聞いて議会として何をやるのか。聞いて終わりになっている。議会報告会では、一方的な話になるため参加者からいろんな質問が出てしまうが、テーマを決めて意見交換会をやり論点を絞る、そしてその結論について議会が責任を持って解決していくことが必要である。
- 意見交換会は相当突っ込んだ話が出てきた。福祉の問題など、特定団体の専門的な人たちとの意見交換、たとえば東邦や聖隷の先生方や老人ホームの方との話し合いなども良いのではないか。

【次回の開催について】

平成26年7月29日（火）午前10時から
「議会報告会・意見交換会について」

以上のとおり会議要録を作成し、ここに署名する。

委員長 石渡 康郎